

日本マス・コミュニケーション学会第 35 期第 10 回研究会（理論研究部会主催）

「メディアという視点から平和博物館をどう捉えるか」

日時：2016 年 12 月 17 日（土） 15:00-17:00

会場：中部大学名古屋キャンパス 8-C

〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田 5-14-22

<http://www3.chubu.ac.jp/organization/facilities/nagoya/>

問題提起者：岩間優希（中部大学）

報告者：福島在行（広島平和記念資料館）

司会：難波功士（関西学院大学）

企画の意図：

戦後 71 年を経た現在も、戦争あるいはその認識をめぐる議論が実際の政治・外交において大きな位置を占めている。戦争を同時代的に伝えるものが戦争報道であるとするならば、平和博物館はそれを未来へと伝えるものの一つであろう。しかしながら後者については、これまでマス・コミュニケーション研究の領域で必ずしも十分検討されてこなかった。博物館は単に事実を展示するものではなく、特定の世界観の表現である。例えば広島平和記念資料館（原爆資料館）を見た場合、被爆地として世界に向けて発信するメッセージや、来館者からの反応といったコミュニケーション行為は、核問題が脅威であり続けている現在、国際社会においてますます重要な意味を持つてくると思われる。

本研究会では、戦争報道の研究者である岩間優希会員の問題提起の後、現在リニューアルを進めている広島平和記念資料館の学芸員で、博士論文「現代日本の平和博物館の現状と諸課題に関する考察」（京都府立大学）の執筆者でもある福島在行氏に日本の平和博物館の来歴や研究状況を報告してもらおう。平和博物館研究における知見を共有することで、メディア研究として平和博物館をどう捉えていくことができるのか議論していきたい。